

にほん じょせい けっこんかん
日本の女性の結婚観

にほん けっこんりつ たか くに い たし けっこん はんにんまえ こ も いちにんまえ
日本は結婚率が高い国だと言われている。確かに、「結婚して半人前、子どもを持って一人前」
い けっこん こ も ひと いっしょう なか たいへんじゅうよう どうぜん
とも言われ、結婚して子どもを持つことは、人の一生の中でも大変重要で、また、当然の
にんしき けっこん ほうてき けいざいてき ゆうり
ことだと認識されてきた。さらに、結婚することにより、法的にも経済的にも有利になると
そくめん
いう側面もある。

ねんだい こうはん
ところが、1980年代の後半から、マスコミでは、しばしば男性の結婚難に関する問題が取り
あ もんだい いちばん げんいん だい だいなか じょせい どうせだい
上げられるようになった。この問題の一番の原因は、20代から 30代半ばの女性が、同世代の
だんせい すく なら じゅうよう おも わか じょせい けっこん
男性より少ないことである。しかし、それと並んで重要だと思われるのは、若い女性が結婚を
げんしょう ひこん りゅうこう ご う ひこん
したがらなくなったことである。この現象は「非婚」という流行語まで生んだ。「非婚」とは、
むり けっこん どくしん えら い み みこん ちが
無理に結婚せずに独身を選ぶことを意味していて、「未婚」とは違う。

じょせい かんが はいけい じょせい しゃかいしんしゅつ じゅうらい にほんがた けっこん
女性がこう 考えるようになった背景には、女性の社会進出がある。従来の日本型の結婚は、
だんせい よめ じょせい とつ さき か じ いくじ せんねん おつと
男性が「嫁をもらう」ということであった。そして女性は、嫁ぎ先で家事や育児に専念し、夫
やしな ふつう おとこ しごと おんな か じ かんが いま
に「養ってもらう」のが普通だった。そのため、「男は仕事、女は家事」という考えが今で
のこ じょせい そと はたら か じ ぜんぶ かんが
も残っており、女性はたとえ外で働いていても、家事も全部やらなければならないと 考え
ひと すく じょせい けっこん しごと じぶん じゅう じかん りょうりつ
る人が少ない。女性が「結婚」と「仕事」や「自分の自由にできる時間」を両立させよ
うとすると、大きな負担を強いられることになる。それで、最近の職業を持つ女性たちは、
おお ふたん し さいきん しよくぎょう も じょせい
このような結婚に疑問を持つようになった。自分が興味を持っている仕事や、せっかく 手に入
けっこん ぎもん も じぶん きょうみ も しごと て い
れた経済的にも時間的にも余裕のある自由な生活を、そのような負担のある結婚生活のため
けいざいてき じかんでき よゆう じゅう せいかつ ふたん けっこんせいかつ
に簡単にあきらめることはできない、と 考えるようになったのである。

かんたん かんが
こういう女性の新しい結婚観は、かなり定着してきたように思われる。実際には、一生結婚
じょせい あたら けっこんかん ていちゃく おも じっさい いっしょうけっこん
するつもりはないと言う女性は、まだ少ない。しかし、自分が納得できる結婚生活を送れる
い じょせい すく じぶん なつとく けっこんせいかつ おく
相手が見つからない限り結婚しない、と言う女性が増えていることは確かである。今後、社会
あいて み かぎ けっこん い じょせい ふ たし こんご しゃかい
が変化するにつれて、結婚の意味や男女の役割分担などについて、女性だけでなく、男性も
へんか けっこん い み だんじょ やくわりぶたん じょせい だんせい
より積極的に 考えていかなければならないことは言うまでもない。